

## 民具と生活文化 —新潟県佐渡郡小木町町場における 衣装箆笥をめぐる—

中村実央

筆者は一つのモノを通して何かが見えてくるのではないかと考え、その手段として新潟県佐渡郡小木町町場において、明治末期から大正期を中心に製作された小木箆笥と呼ばれる衣装箆笥を取り上げた。

佐渡島では八幡箆笥と呼ばれる桐箆笥も製作されたが、八幡の箆笥は北海道への移出向けから高級品まで、品質の段階が多かった。

箆笥は嫁入り道具として婚姻の習慣と結びつきが強く、小木町に限らず、島内各地の資料に嫁と箆笥の習慣に関する記述が見られる。

小木町は慶長期に町が開かれて以降、金銀の積出港・西廻り航路の寄港地などとして栄えた港町で、商人や船乗りたちが町人文化を展開したと言われる。

小木箆笥は小木町で盛んに製作された船箆笥の技術を受け継いで作られた。前板は堅い櫓で、内側は軟らかい桐でできている。厚くて大きい飾り金具が特徴である。昭和に入ってから生産は縮小していったが、最後の箆笥職人は昭和43年頃まで製作していた。

小木箆笥は製作に手間がかかるため非常に高価になり、誰もが持てるというものではなかった。

筆者は小木町町場の民家を中心に聞き取り調査を行い、本論では主に結婚に関わる内容を紹介した。また特に豪華だったと言われる芸者の箆笥についてもふれた。

小木町で明治生まれの人たちが結婚する頃まで行われていた結婚の儀式については、嫁が婚家に定着するかどうか分からない段階での、結納や嫁入りの儀式は簡素に行われる。この際にはまだ立派な箆笥は支度されない。出産後のマゴイリ・女の厄年の三十三・家督を譲る際のシキセなど、嫁が婚家で主婦になっていく過程の儀式においては、実家から

箆笥をはじめ布団・蚊帳などが贈られる。結婚に関する話を伺っていく中で、嫁が婚家に定着したというシンボルの一つとして箆笥をとらえ得ることが確認できた。

小木箆笥が非常に豪華なものになって人びとに受け入れられた背景として、外に対して羽振りをよく見せたという、商人社会に特徴的な気風が小木町にあったということが言えよう。これを裏付けるように、「小木の町の人には箆笥を人目につく居間に飾り、羽茂(隣町)の農家の人は蔵に入れて片づけてしまう」という話も聞かれた。

本研究ではモノを通してその背景にあるものを覗こうという当初の関心に、多少なりとも近づけたのではないかと考えている。また主に聞き取りの内容からテーマに迫ることもできたが、深い考察に結び付けるまでには至らなかった。より体系的に考察を発展させていくことが今後の課題である。

## 甲府の気温の日較差について

半間有希子

気温は気象要素の中で重要なものである。気温の日変化を表すものとして有効なのが気温の日較差である。気温の日較差は、気候の重要な指標であるといわれている。地理的分布によって変化し、ある一定の土地においては季節や他の気象要素が大きく影響する。農作物に与える影響も指摘されており、日較差の大きい地域では生活に欠かせぬ情報である。しかし、日較差は取り上げられることが少なく、どのような現象であるか具体的に解明されていない。今まで、定量的に解析した研究も行われていない。そこで、本研究では、全国的にみて日較差の大きい甲府を題材にして、20年間分の気温の日較差について解析を行い、その特性を明らかにすることを試みた。

データは、1976～1995年の20年間について、甲府地方気象台発行の「気象月報」の日